

一生の支えとなる
すてきな思い出をつくろう



▲高学年の作品はすごいなあ



▲先生がみんなに元気をくれた



みんなで食べるって楽しいね



いろいろな体験を役立たせたい



△学年をこえた交流は楽しい

- 10年たってあなたが小学校生活を振り返るとき、どのような思い出を語れるだろうか。
- 先生のこと、友達のこと、学級生活でのさまざまなかぎごと…。あなたが胸をはって語れることは、みんなあなたのかけがえのない財産となって残っているものばかり。
- いま、もしいままでの小学校生活について語ってほしいと言われたら、どんなことが思い出されるだろうか。
- すてきな思い出がいっぱい語れるように、これからの中学校生活をじゅう実させていきたい。

学び合 う中



△給食で好ききらいをなくせたよ



△工夫して作るっておもしろい



△整理整とんがこの学校の自慢



△こんな感動もたくさんあったね



△先生はいつもはげましてくれた

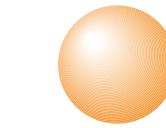


△休み時間には友達がたくさんできた



△毎日の行き帰り「ありがとうございます」

校風をつくるのは わたしたち



校風とは、学校のみんなでつくりあげてきた学校らしさ。
だからこそ、みんなで育て、守りたい。
その学校らしさを、いま、感じているわたしたち。

多くの先輩たちがつちかい、わたしたちが受けついぎ育てる
学校が生まれたときから育ってきた学校の心。
学校の顔。
わたしたちの学校には、そんな胸をはれる伝統がある。

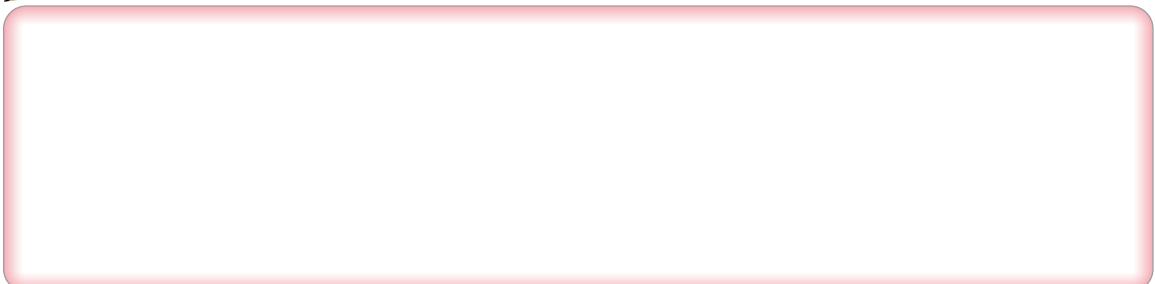


まだまだ小さかったわたしを
今までやさしくつんでくれたこの学校。
この校風の中でわたしたちは大きくなった。



わたしたちの学校に
できることはなんだろうか?
それは高学年としての自覚をもって
よりよい校風を後輩たちにも
受けわたしていくことだ。
思い出をつくる毎日を
しっかりと心にきざみながら。

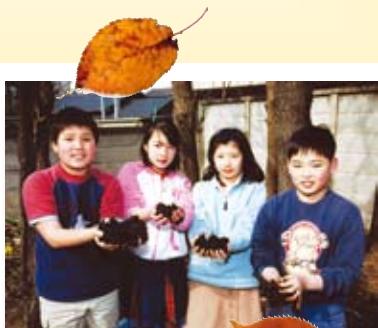
わたしたちの学校にはこんな校風がある。



ぼくたちの学校の六年生は、秋になると、朝から交代で落ち葉はきをしている。ぼくは、この仕事を、何年も前の六年生が自分たちで決めて始めたと聞いておどろいた。それから、今までずっと続いているのだというからすごい。

一生けん命はいても、次の日には、どっさりとあるので大変なときもある。しかし、思い出のいっぱいいつまつた校庭だ。集めた落ち葉も、来年の一年生が花を育てるためのふよう土になるのだと思うと、力がわいてくる。

(児童作文)



せんぱい
先輩が始めたことがある。
わたしたちが受けついでいく。
そして、後輩たちも…。



わたしたちの学校をよくしていくために、どんなことができるだろう。



校胸
風をはれる校風がある
わたしたち自身